

新年にあたって

会長 船木正也

2023年の年が明けました。

思い返せば、去年はスポーツが話題の一年でした。2月の北京冬季オリンピックや11月から12月にかけてのワールドカップサッカーが世界中を熱気で包み込みました。8月から10月にかけてポーランドおよびオランダで開催されたFIVB バレーボール世界選手権もその一つです。

そして今年は早くもバレーボールを含め2024パリ五輪の出場権を掛けた厳しい競い合いが世界各地で展開します。

国際的スポーツイベントは通常を取り戻しつつあるとはいえ、私たちの日常生活においては新型コロナは蔓延と沈静を繰り返すまま収束は見え、また

周りを見回せば社会・経済情勢は不安定さを増すばかりです。

このような時代だからこそ、人々の暮らしの中にある「スポーツ」という文化は、今後益々重要度を増していくことになるのではないのでしょうか。バレーボールというスポーツを楽しむこと、極めること、仲間の奮闘を応援すること、地元チームの活躍が地域の活力になること、スポーツによって健康長寿を適えること、競技を通して若者の健全な人間形成を助けること。そういった健やかな社会を育むことは、私たち長野県バレーボール協会が果たすべき大切な役割の一つだと思います。

5年後に迫った2028長野国民スポーツ大会は、バレーボールという競技がよりよい社会作りや地域コミュニティの活性化などに貢献できるかどうかの大きな試金石となります。この間、選手の強化はもとより、多くの県民がバレーボールを楽しみながら成長し、生活に豊かな彩りを加えられるように、当協会の皆さんと前向きに進んできたいと考えています。

その実現のためには、Vリーグ・男子のVC長野トライデンツ、長野 GaRons、女子のルートイングループ・ブリリアントアリーズに始まり、小・中・高・大学・実業団・クラブ・ママさんなどがそれぞれの舞台で大きく躍進されることを願うと同時に、是非とも皆が一緒になって、県民の誰もが注目するバレーボール像を作っていくことが何にも増して必要です。

公益財団法人日本バレーボール協会が発表した『JAPAN バレーボール宣言』『JAPAN バレーボール WAY』も、その思いは同じなのではないでしょうか。

今年1年、長野県のバレーボールの発展のために、乗り越えなければならない課題はたくさんありますが、関係諸氏全ての絶大なるお力添えを心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と大願成就を心からお祈りして、年頭の挨拶と致します。

以上



男子は後もう一步の8強 女子も優勝した東京に屈して16強止まり

【県強化委員 木下久資・安藤利長】

出発1週間前の12月18日（日）には塩尻市立丘中学校で壮行会を開いて頂き、主催者である読売新聞社松本支局長の野口賢志様や本協会の村上里志専務理事から激励の言葉を頂戴しました。その後、高校生との練習試合や平日練習で最後の調整をして男子は24日（土）に、女子は25日（日）に長野県を出発。大阪での本大会に臨みました。

コロナ感染者数が中々減らない中、例年25日に行われていた華やかな開会式は今年も無しになる等（25日は代表者会議のみ）、昨年に引き続き厳戒体制の中での開催となりました。只、昨年は26日の予選グループ戦で決勝トーナメントに進出出来るのは3チーム中1チームのみでしたが、それが今年は従来通り2チームに戻ったことと、試合会場に入れるチーム関係者、応援保護者の一斉入館・退館は変わらなかったものの、その人数は大幅に緩和され、少しだけ例年に戻った大会となりました。

男子は、メイン会場の丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）を中心に3日間の熱戦が繰り広げられました。

初日の予選は、右表でも分かる通り、過去の実績で言えば何れも長野を上回る福岡県・京都府と同グループでした。京都を下した福岡との試合は、初戦の硬さ及び相手のネームバリューとの戦いでもありました。試合が始まると、夏の全国大会ベスト8の小布施中の両レフトエースが徹底マークに遭って、ブロックされるは拾われるはで全然決まらず、1セット目は21点で落としました。只、そんな中でもミドル陣のクイックは比較的決定率が高く、ブロックも効果的に出て2セット目を29-27で奪うと、15点マッチの最終セットも相手を13点に抑えて奪取。86分の激闘に決着をつけました。

《男子予選6組各チームの実績》			
	優勝	2位	3位
福 岡	7回	4回	5回
京 都	1回	1回	2回
長 野	1回	0回	2回

尚、この試合の86分という所要時間は、今大会の男子全試合中の最長時間でした。

しかし、これでホッとしてしまったのか、次の京都戦第1セットはいきなり1-7から9-17と大量リードを許す展開。ここで漸く正気に返ったかのように19-23から何とかデュースに追いつきましたが、そこで再び気が抜けたのか、延々とデュースの繰り返し。何とか35-33で取ったものの、この35点という得点は、今大会の男女全セット中の最多点数でした。全てのコートの試合が終わっている中で行われた次のセットは、気落ちした相手を16点に抑えて勝利。



この組の1位での決勝トーナメント進出を決めました。

翌日の決勝トーナメント1回戦はBコート第2試合。相手は11組2位の佐賀県でした。前日とは打って変わってクイックに切れが見られずにもたつきましたが、184 cmの相手2年生エースをマークしながらサイドアタッカーが要所を締め、相手を20点と17点に抑えて2回戦に進みました。

その2回戦は第5試合。相手は富山県に逆転勝ちした5組1位の茨城県でしたが、少し空いた時間を使い、帯同して頂いたトレーナーや栄養士の指示に従った体のケアや食事・栄養補給を行った上で、相手の情報を整理して試合に臨みました。ショートサーブ等を効果的に使いながら相手を崩す一方、攻撃にも切れが戻り、危なげないゲーム運びで14点と15点に抑え込んで準々決勝に進出しました。

相手は、優勝候補の熊本県を2-0で下して勝ち上がって来た新潟県。幾度となく練習試合を重ねた隣県であり、監督は大学バレー部の同期生同士と、正に因縁の対決となりました。この日このコートの最終試合、第1セットは長野が先行しましたが、ショートサーブで攻められてクイックを拾われたこと等をきっかけに中盤で逆転を許し、21点でこのセットを失いました。第2セットは一転、新潟ペース。3-8とリードされましたが、粘って相手ミスを誘いながら中盤で追いつくと19-19からサーブで崩し20点でこのセットを奪い返しました。15点マッチの最終セット、8-8迄は一進一退の攻防でしたが、ブロックでブレイクポイントを許すと、クイックだけでなく高いトスも打つ192 cmの相手ミドルや183 cmの2年生エースを止められず、10-13から押し切れ、



11点でこのセットを落とし、セットカウント1－2の惜敗となりました。

一方、女子の予選グループ戦及び決勝トーナメント1～3回戦は、2年振りにエディオンアリーナ（大阪府立体育会館）がメイン会場となりました。

予選グループ戦は、岐阜県・福島県と同組で、初戦の相手は福島に敗れてもう後がない岐阜との対戦でした。1セット目、初戦の硬さからか中々リズムに乗れず、追いついてはサーブミスを繰り返してデュースの末に奪われました。しかし2セット目からはサーブを修正し、16点でセットを奪い返すと、勢いそのまま、15点先取の3セット目は8点に押さえて勝利。この時点で予選グループ戦の突破が確定しました。

続く第2試合の相手は福島。勝ったチームが予選グループ戦の1位通過ということもあり、緊張感のある展開となりました。第1試合同様、中々リズムに乗れず終盤まで競い合う展開となりましたが、25－23で1セット目を取りました。2セット目も苦しい展開の中、粘り強く戦って27－25で勝利。この組1位で決勝トーナメントに駒を進めました。

翌日の決勝トーナメント1回戦の相手は、東北地区で前評判の高かった宮城県。セッターがジャンプトスから速くボールを回すコンビバレーが特徴のチームでした。1セット目、緊張感から解放されたのか、前日とは違った効果的なサーブや思い切りの良いプレイが随所に出て、タッチアウトで得点を重ねる理想的な展開。23点・21点に相手を抑えてストレートで勝利しました。



続く2回戦は、優勝候補の一角である東京都との対戦となりました。1セット目の序盤は、サーブで崩しながら得点を重ねて一時リードする展開でしたが、中盤で追いつかれると、強打で一気に突き放されて16点で落としてしまいました。2セット目も中盤までは五分の戦いをしていましたが、高い打点からの強打で一気に突き放され、18点での敗戦となりました。

今年度も新型コロナの影響をかなり受け、練習が出来ない時期があったり、例年のように県外遠征が出来なかったりという状況でした。その中で男女各12名の選手とスタッフは、個々のスキルアップに重点を置いて工夫しながら練習に取り組み、チームを作り上げて来ました。その結果、選抜チーム結成当初に比べて選手一人一人の技能も大いに向上し、その成果はこの大阪でも充分に垣間見ることが出来ました。選手達の今後の活躍を大いに期待し、応援して行きたいと思います。

最後になりましたが、御支援頂きました読売新聞社様、(一財)長野県バレーボール協会の皆様、そして県内各高校の皆様に御礼を申し上げます。

長野県地域スポーツカンファレンス開催

「中学部活の地域移行」について県の方方向性が示される！

【県協会専務理事 村上里志】

令和4年12月17日（土）、長野市ホテル国際21において、長野県スポーツカンファレンス（Web併用）が開催されました。

内容は「中学部活動の地域移行」についてでした。これまでの経過説明と事例研究発表、県教委のガイドラインならびに県中体連の方方向性などが示され、それぞれ活発な質疑応答が行われましたが、本会が推し進めるジュニアクラブプロジェクトとの関係性における課題認識ができました。

1. 行政主導の推進のため、地域クラブの形態と各市町村の方針・方向性との整合
2. 郡部と市街地でのスポーツ環境の格差是正（郡部は行政支援がより必要）
3. 指導者確保と指導者報酬の財源捻出（行政支援が必要）
4. 現在学校負担・補助となっているボールなど必要用具やユニフォームの購入費や、大会参加費用などに対する保護者負担の軽減（貧困によるスポーツ機会喪失対策など行政支援が必要）
5. 地域クラブの受け皿となる団体設立と競技環境整備（普及型と強化型別の大会設置など）

また、県中体連からは、地域クラブの中体連大会への参加について、令和5年度より可能との方向が示されましたが、スポーツ庁発出の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の条件を満たす他、JVAおよび中体連への登録と県競技団体（県協会）の推薦が必須となります。

令和5年度の中体連主催大会に参加を希望する地域クラブは、上記の手続きを経て、最終「令和5年2月15日（水）」までに必要書類を各地区中体連に提出する必要があります。但し、県中体連からは、地域クラブの理念などを慎重に検討し、特に強化型クラブの推薦は控えるよう各競技団体へ要請がありました。

本会議の参加者61名中、バレーボール関係者が19名（対面・Web計）と約30%を占め、関心の高さが窺えました。各地区協会・加盟団体の皆様、関係の協会員には、今回の内容を踏まえていただき、引き続き地域クラブの結成・発展にご協力をお願いするものです。

最後に、本テーマについてはネガティブに捉えがちですが、競技志向・趣味健康志向・複数スポーツチャレンジ等々、ジュニア世代の多様なニーズに応じて行くものと考え、よりポジティブに取り組めるのではないかと主催者側からの提言があり、閉会となりました。

（注）カンファレンスとは会議・協議を意味し、県スポーツ協会主催で毎年開催

2022-23 V. LEAGUE DIVISION3 MEN

長野GaRons 須坂市のホームゲームで勝利ならず

【大会副委員長 竹内 護】

12月3日（土）・4日（日）は、試合数に差はあるものの、現在4戦全勝の勝ち点12をあげて、リーグ戦3位につけるクボタスピアーズ（以下「クボタ」）を須坂市に迎えての2連戦でした。長野GaRons（以下「ガロンズ」）としては、開幕戦で敗れた相手を連破し、ホームゲームで4位から上位進出の足掛かりを掴みたいところであり、今大会は久々の有観客試合として始球式等のイベントも準備して盛り上げたいところです。

その始球式でサーバーを務めたのは、8月末の『Vリーグジュニアユース選手権大会』で優勝したガロンズジュニア女子チームのセッター永野選手でした。永野選手は、現在リーグトップのサーブレシーブ返球率を誇るクボタから、見事なサービスエースを奪う素晴らしいジャンプサーブを披露して、会場を盛り上げてくれました。

第1戦は、両チームともファイトあふれるプレイを展開して、白熱のラリーが続きました。デュー스에 連れ込んだ第1セットは27-29でクボタが取り、第3セットは36-34でガロンズが取り返しましたが、安定した守備力を見せたクボタが3-1で勝利して、開幕5連勝を飾りました。

4日の第2戦もガロンズジュニア和田選手の始球式でスタート。試合は0-3のストレート負けとはなりましたが、ガロンズは内定選手中條を先発させたり、小林と多田のベテラン勢を起用したりして、後一歩まで迫りました。



2日間にわたって多くの観客の皆様が応援に駆けつけて下さり、ガロンズも向上した守備力から力強い攻撃を展開。迫力あるラリーが続く試合となって、会場は大いに盛り上がりました。厳しい環境の中、2日間の大会運営をスムーズに開催できるよう協力して下さいました関係各位に感謝するとともに、次回ホームゲームでのガロンズの活躍を期待したいと思います。

12月試合結果

- ☆ 2022-23 V.LEAGUE Division3 MEN (12/3～4 ガロonz)
<https://www.vleague.jp/form/a/28137>
<https://www.vleague.jp/form/a/28138>

- ☆ 天皇杯・皇后杯 全日本選手権大会 ファイナルラウンド
http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2022siaikeka/R4.12.18_tennohai_fainai.pdf

- ☆ JOCジュニアオリンピックカップ 第36回全国都道府県対抗中学大会
http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2022siaikeka/R4.12.28_JOC.pdf

1月スケジュール

1/4(水)～8(日)	春の高校バレー 第75回全日本高等学校選手権大会	(東京都)
1/7(土)～8(日)	2022-23 V.LEAGUE Division1 MEN (VC長野)	(岡谷市)
1/8(日)～9(月)	北信越連盟 審判委員長会議	(富山県)
1/14(土)	県協会 正副会長会	(塩尻市)
1/14(土)～16(月)	長野県高等学校新人体育大会バレーボール競技会	(松本市)
1/14(土)～15(日)	2022-23 V.LEAGUE Division3 MEN (ガロonz)	(須坂市)
1/28(土)～29(日)	エプソン杯第38回長野県中学校選抜優勝大会	(上伊那地区)
1/28(土)～29(日)	2022-23 V.LEAGUE Division1 MEN (VC長野)	(松本市)
1/28(土)～29(日)	2022-23 V.LEAGUE Division2 WOMEN (ルートインホテルズ)	(千曲市)

いつもNVAニュースをご覧いただき誠に有難うございます
 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします
 本年もどうぞ宜しくお願いいたします

NVAニュース編集委員会
 村上里志、赤間善浩、木下久資、堀内和美